



齋藤 麻実（解説・旭川星光伝道所、美馬牛福音伝道所主任担任教師）

島田久美子（賛美歌・月寒教会員）

高杉 香苗（奏楽曲・札幌教会奏楽者）

「礼拝と音楽」は209号をもって休刊となりました。しかし、皆様のご配慮によってこうして教会暦の区切りまでお届けできることに感謝します。

教会員の高齢化と減少、地方の過疎化。「礼拝を守る」ことさえも厳しい状況にある教会があります。できなくなったことを見るとキリがありません。そのような状況の中でも、できることをしようと取り組んでくださっている方々が確かにいます。私はその姿の中に神さまの存在を感じ、励まされてきました。そして困難な状況にある教会の助けになればという願いをもって島田さん、高杉さんと共に考え、取り組むことができたことに感謝します。困難な時代にあって、「教会だからこそできること」が確かにあると私は信じています。これからもそれぞれの場所での礼拝に、また日々の歩みのうえに神さまの祝福が豊かにありますように祈ります。（齋藤麻実）

## 礼拝日課

月日	教会暦	主題	旧約	使徒書	福音書	詩編
8月16日	聖霊降臨節第13主日	新しい人間	ミカ書 6:1-8	エフェソ 4:17-32	マルコ 10:46-52	詩編 8:1-10
8月23日	聖霊降臨節第14主日	すべての人に対する 教会の働き	イザヤ書 5:1-7	使徒 13:44-52	マルコ 12:1-12	詩編 40:1-12
8月30日	聖霊降臨節第15主日	最高の道	ホセア書 11:1-9	Ⅰコリント 12:27-13:13	マルコ 12:28-34	詩編 62:1-13
9月6日	聖霊降臨節第16主日	生涯のささげもの	列王記上 21:1-16	ガラテヤ 1:1-10	マルコ 12:35-44	詩編 119:73-80
9月13日	聖霊降臨節第17主日	奉仕する共同体	申命記 15:1-11	Ⅱコリント 9:6-15	マルコ 14:1-9	詩編 112:1-10
9月20日	聖霊降臨節第18主日	キリストに贖われた 共同体	出エジプト記 12:21-27	ヘブライ 9:23-28	マルコ 14:10-25	詩編 96:1-9
9月27日	聖霊降臨節第19主日	苦難の共同体	創世記 32:23-33	コロサイ 1:21-29	マルコ 14:26-42	詩編 43:1-5
10月4日	聖霊降臨節第20主日	執り成し	出エジプト記 32:7-14	ヘブライ 6:4-12	マルコ 14:43-52	詩編 106:6-23
10月11日	聖霊降臨節第21主日	忍 耐	ダニエル書 3:13-26	使徒 5:27-42	マルコ 14:53-65	詩編 37:30-40
10月18日	聖霊降臨節第22主日	天国に市民権をもつ者	イザヤ書 25:1-9	黙示録 7:2-4, 9-12	マタイ 5:1-12	詩編 146:1-10
10月25日	降誕前節第9主日	創 造	ヨブ記 38:1-18	使徒 14:8-17	ルカ 12:13-31	詩編 148:1-6
11月1日	降誕前節第8主日	保存の契約（ノア）	創世記 9:8-17	ローマ 5:12-21	ルカ 11:33-41	詩編 1:1-6
11月8日	降誕前節第7主日	神の民の選び （アブラハム）	創世記 18:1-15	ローマ 9:1-9	ルカ 3:1-14	詩編 105:1-11
11月15日	降誕前節第6主日	救いの約束（モーセ）	出エジプト記 3:1-15	ヘブライ 8:1-13	ルカ 20:27-40	詩編 77:2-21
11月22日	降誕前節第5主日	王の職務	サムエル記下 5:1-5	Ⅰコリント 15:20-28	ルカ 23:35-43	詩編 18:47-51

### 【聖書日課の朗読箇所】

朗読箇所を省略しなければならないときは、次の文書が読まれるように勤められています（次頁以降太字で提示しています）。

- ・降誕前節……旧約
- ・降誕日～復活節第7主日（昇天後主日）……福音書
- ・聖霊降臨日～聖霊降臨節最終主日……使徒書あるいはそれに準じる新約文書

### 【賛美歌欄・奏楽曲欄の歌集略記】

- ・番号のみは『讚美歌21』
- ・こ→『こどもさんびか改訂版』
- ・アイオナ→『みんなで輝く日が来る——アイオナ共同体賛美歌集』
- ・ダウ→『神の時は今満ちて——カール・P・ダウ, Jr. 賛美歌集』

【奏楽曲欄の楽譜】 17頁に掲載しています。

8/16

聖霊降臨節第13主日

ミカ書 6・1～8

エフェソ 4・17～32

マルコ 10・46～52

詩編 8・1～10

## 新しい人間

### 主日解説

「盗みを働く者は、もう盗んではいけません。むしろ、労苦して自らの手で真面目に働き、必要としている人に分け与えることができるようになりなさい」

(エフェソ 4・28)

「盗んではいけない」なんて当たり前すぎる、と思うかもしれません。しかし、本当にそうでしょうか。私は人の「時間」を盗んでしまったと反省することがあります。事前にきちんと準備をすればこれほど時間がかからなかった。結果として相手の時間を奪ってしまうことになる。それは相手のことを大切にしていなのと同じだと思うのです。

「盗む」というのは、誰かの財布を盗むことだけではありません。現代の私たちは、自分たちの便利な暮らしのために、自然を奪い、資源を奪い、地球環境を壊し続けています。これもまた、「盗み」と言えるのかもしれません。

「今だけ、金だけ、自分だけ」という

生き方は、結局環境を破壊していくだけではなく、人間を滅ぼす方向へと向かうことです。今、私たちに求められているのは、神さまが造られたこの地球を守り、その恵みをみんなで分かち合うことなのではないでしょうか。

つまり、「盗まない」というルールは、今の私たちにあって、「奪い合うのではなく、共に生きる世界を作る」という、挑戦でもあるのです。とはいえ私たちはなかなかそのように歩むことはできない。しかし、一度失敗したからこそ、人の痛みがわかる。その手が、今度は誰かを支える手になる。どん底から立ち上がった人が、次は誰かと希望を分かち合う存在になるのだということを今日与えられた聖書は示しているのです。

より豊かさを求めるのではなく、神さまが既に与えてくださっているものに目を向け、それを共に分かち合う歩みをなしていきたいと願います。

### 賛美歌

424「美しい大地は」 生命あふれる大地は、神が共に生きるために託されたもの。流れるような美しい旋律にのせて歌います。今、大地が灰色へと変わっていないだろうか。

445「ゆるしてください」 互いに赦し合いなさいとの御言葉。でもそれができない私をも包み込む神の赦しを強く願いながら、5音で作られた独特なメロディーで賛美します。

514「美しい天と地の造り主」 天と地を行き交うようにはっきりした音の高低を意識しながら、すべてを造られた神に、新しい生き方ができるよう願い求めつつ賛美しましょう。

523「神を畏れつつ」 聖書箇所 30 節に対応する「神の聖霊を悲しませず」という言葉が心に響きます。四声部を歌えばより豊かなイメージを持つことができるでしょう。

### 奏楽曲

205 (こ2)「今日は光が」 飯靖子①

曲集①は 2022 年出版の第 2 巻に続き、今年 1 月に出版されました。「礼拝・詩編と頌歌・朝夕の歌」による現代作家の作品集です。手鍵盤だけで弾ける親しみやすい曲が多いので、今回のクールでいくつか紹介したいと思います。205 は「この賛美歌の明るさを表現する前奏曲を……」と作曲者は考えたと言っています。快活な曲想で始まり、最後にゆったりと賛美歌が流れ、わたしたちの心を「主の日」の礼拝へと向けてくれます。

8/23

聖霊降臨節第 14 主日

イザヤ書 5・1～7

使徒 13・44～52

マルコ 12・1～12

詩編 40・1～12

## すべての人に対する教会の働き

### 主日解説

ピシディア州アンティオキアの会堂で、パウロは「イエス・キリストを信じる者は、誰でも罪を赦され、神に受け入れられる」と語りました。これまでのユダヤ教では「律法を完璧に守ること」が救いの条件でしたが、パウロは「ありのままの自分でいい」と語ったのです。この話は人々に感動を与え、次の安息日には、町中の人々が話を聞こうと集まりました。

ところが、それを見たユダヤ人たちの態度は一変します。彼らはパウロを激しくののしり、反対しました。それは、自分たちが「特別な存在」だという誇りを持っていたからです。自分たちだけの聖域に、異邦人（外国人）が入り込んでくることが許せなかったのです。

パウロは、「神の恵みは、あなたがただけでなく、地の果てまで、すべての人に開かれている」と語りました。そして、拒絶された異邦人たちの方へと向かいました。異邦人たちはこれを聞いて喜び、

信仰に入ったと書かれています。

「自分たちと違う存在を排除しよう」とする行動は、今の日本社会にも共通しています。インターネット上で「外国人が増えて治安が悪くなった」というデマが流されたり、特定の人々を攻撃するヘイトスピーチが行われたりしています。統計的には外国人犯罪は減少傾向にあるにもかかわらず、私たちは「異質なもの」への不安から、勝手なイメージを作り上げて攻撃してしまうことがあります。

私たちは、自分と同じ考えや境遇の人だけで集まると安心します。しかし、その「閉ざされた関係」の中に閉じこめることは、新しい出会いや豊かな人生の可能性を捨てていることでもあります。

聖書は、その壁を打ち破って外へ出ることを促しています。自分とは違う誰かと出会い、受け入れ合う。その勇気を持ったとき、これまでとは違う形で「神さま」と出会うことができるのです。

### 賛美歌

413「キリストの腕は」キリストの愛が「違うこと」の喜びを語り掛けます。3拍子のリズムに、4, 3, 4, 3 という小節の変則的なまとまりが動きと広がりを生み出しています。

416「神の民は」皆が等しく神の恵みを受け、違いを越えて仲間となり一つにされる。旋律も 1、2 段目が同じ、3、4 段目前半までは変化、最後に初めの音に戻る形をとります。

543「キリストの前に」聖書箇所 47～48 節を歌う 1 節の歌詞。キリストに倣って、誰をも隔てず、互いに励まし仕え合えますように。集いささげる礼拝に喜びと感謝を。

こ 140「みんなでへいわを」時に大学生と、時にこどもたちと、時に高齢者とのイベントで、手話も用い掛け合いながら賛美しました。平和を願う心はいつもどこでも同じ。

### 奏楽曲

543「キリストの前に」高浪晋一②／こ 140「みんなでへいわを」高浪晋一②

413「キリストの腕は」北澤憩③

543 は賛美歌の作曲者自身による作品です。何か所かある三連符のリズムも含めて、賛美歌のこトバを歌うように弾きたいです。左手はどうしても弾きにくいので、後半で旋律が左手になると三連符は特に難しいかもしれません。歌いながら練習しましょう。こ 140 は同じ曲集②に、本誌 209 号で紹介した 413 は曲集③に作品があります。

8/30

聖霊降臨節第 15 主日

ホセア書 11・1～9

Ⅰコリント 12・27～13・13

マルコ 12・28～34

詩編 62・1～13

## 最高の道

### 主日解説

皆さんにとって大切なものは何でしょう。お金、健康、家族……いろいろでしょう。今日与えられた聖書には、「人生で最後に残る大切なものは、信仰、希望、そして愛」と書かれています。これらは目には見えず、お金で買うこともできません。だからこそ、誰の心の中にも宿すことができる、大切なものなのです。

私たちは今、かつては想像もできなかった便利な時代に生きています。スマートフォンや AI など、新しい技術や知識が次々と現れては、古いものを塗り替えていきます。しかし、どれほど時代が進んでも、知識や道具だけで人の心が満たされることはありません。新しい知識はやがて古びてしまうからです。

聖書は、最も大切なものは「愛」であると語ります。ここでいう愛とは、単なる感情ではなく、日々の「生きる姿勢」のことです。

「愛は忍耐強い。情け深い。人を妬ま

ない。自慢せず、威張らない。礼儀に外れず、自分の利益だけを求めない。すぐ怒らず、人の過ちを根に持たない。真実を喜び、すべてを信じ、すべてに希望を持ち、すべてを耐え忍ぶ」。この「愛」という言葉を、ご自身の「名前」に置き換えて、読み返してみてください。

「私は忍耐強い。私は情け深い……」。そうありたいと願いつつも、そう生きることができない自分の姿を苦々しく思うかもしれません。しかし、そんな私を「愛をもって導いてくださっている方」の存在に気が付くことができるのです。

移り変わりの速い世界で、何が本当に価値あるものか見失うこともあります。しかし私たち人間にとって忘れられない瞬間には、「愛」がある。たとえ別れの瞬間であったとしても。愛を持って身近な人と接し、自分自身を大切にしようとするとき、私たちの心には「いつまでも消えないもの」が残っていくのです。

### 賛美歌

201「天使のことばも」愛がなければすべてが空しい。これは何にも代えられません。愛の意味、主の存在を確かめつつ、最後の 3 段目の伸びやかな音をたっぷりと歌いましょう。  
485「この世を愛する神は」神の愛が現されるその中に、私たちが用いられているのはなんと嬉しいこと。この混迷の世に、御子を再び送られるという約束に希望を抱きます。  
505「歩ませてください」キリスト者として、また共同体として、仕え合い共に歩むことを願います。曲の前半部は願う心を、後半部で示された道を具体的に歩む決心を歌います。  
こ 34「キリストのへいわ」平和が心の隅々にゆき渡るよう祈りましょう。「平和」の部分に違う言葉を入れたり、「平和の挨拶」の前後に歌い礼拝を豊かにすることもできます。

### 奏楽曲

505「歩ませてください」高浪晋一②

「いずみとあふるる」二俣松四郎④

505 は 8 分音符の動きの中に賛美歌の旋律があります。歌いながら一度弾いてみると旋律が感じられるでしょう。この曲の魅力は、それまでの変ホ長調からロ長調に鮮やかに転調するところです。調号が多いですがぜひ挑戦してください。④も同じメロディー（1954 年版『讃美歌』353 番）ですので、この曲を用いることもできるでしょう。

## 生涯のささげもの

## 主日解説

パウロは、誰もが羨むようなエリート人生を歩んでいた人でした。彼は自分の知識に誇りを持ち、当時新しく現れたキリスト者たちを激しく迫害していました。

しかし、パウロは不思議な体験を通してイエスの声を聞きます。「なぜ、私を迫害するのか」という問いかけに、彼は雷に打たれたような衝撃を受け、自分の間違いを悟りました。これまで必死に積み上げてきたものが、自分を縛っていたことに気づかされたのです。

パウロは、それまで誇りにしていたエリートとしての肩書きを捨てました。両手いっぱい自分のプライドを抱えたままでは、神さまが与えてくれる本当に大切なものを受け取ることができないからです。彼は「迫害者」から 180 度人生を変え、敵を愛する道を選びました。それは決して簡単なことではなかったはずですが。これまでの仲間から「裏切者」と言われ、キリスト者からも受け入れても

らえる保証はないのです。しかし、これまで積み上げてきたもの、大切にしてきたことは、もはやパウロにとって意味のないことだと気がつかされたのでした。

イエスもまた、十字架の上で人間としての全ての尊厳を奪われ、惨めな姿で亡くなりました。しかし、十字架の死は「死」では終わらなかった。「復活」が準備されていたのです。

私たちの日々の歩みの中でも、大きな失敗をしたり、深い挫折を味わうことがあるかもしれません。しかし、それは決して終わりではないのです。イエスの十字架の死がそれで終わることがなかったように、です。

自分の弱さを認め、握りしめていた手をそっと開くとき、そこには今の自分を超えた新しい希望の道が必ず用意されています。挫折の先にこそ、私たちの想像をはるかに超えた「その先」が備えられているのです。

## 賛美歌

399 「さすらいの民よ」 行く先が見えず惑い悩む私たちに、「神に立ち帰り、命を受けよ」と厳しいみ声が聞こえます。主の民として、共同体への自覚を呼び起こす賛美歌です。

418 「キリストのしもべたちよ」 キリストのなされた出来事に倣い、「主のみこころ、忘れるな」という僕たちへの強いメッセージ。明るいメロディーが希望と勇気を与えます。

526 「苦しみ悩みの」 苦しみ、嘆きを神の救いに委ね、その先に恵みと喜びがあることを歌います。1, 2 節、3, 4 節は一続きの歌詞。バッハのコラール前奏曲で知られる曲。

564 「イエスは委ねられる」 伝えよ、仕えよ、恐れを乗り越えよとの励ましの言葉に、教会に託された宣教の働きを意識します。「聖霊の力」はそれをなさせてくださいます。

## 奏楽曲

526 「苦しみ悩みの」(われらが悩みのきわみにあるとき) J. C. バッハ⑤ / E. マグヌス⑥

564 「イエスは委ねられる」北澤憩⑥

526 はバロック時代と現代の作品。⑤はテーマが次々と各声部に出てきます。ペダルの指示は左手でも弾けます。⑥は下声部のテーマを聴くことがポイントです。564 は 4 つの音で作られる和音が美しい曲です。その一番上に現れる旋律を大切に。作曲者のことば「この賛美歌の持つ力強さと豊かさ」を表現しましょう。

9/13

聖霊降臨節第 17 主日

申命記 15・1～11

Ⅱコリント 9・6～15

マルコ 14・1～9

詩編 112・1～10

## 奉仕する共同体

### 主日解説

パウロがこの手紙を書いた当時、エルサレムの教会は深刻な飢饉<sup>きん</sup>で苦しんでいました。パウロは各地の教会に「募金」を呼びかけますが、裕福なコリントの人々は「寄付をしたら自分の分が減って損をするのではないか」という損得勘定にとらわれ、活動が止まってしまう。

そんな彼らにパウロは、農業の「種蒔<sup>ま</sup>き」を例に語りかけました。「惜しんでわずかしか蒔かない人は収穫も少ないが、豊かに蒔く人は祝福という実りも豊かになる」というのです。ここで大切なのは、金額ではありません。パウロは「強制されるのではなく、自分で心に決めたとおりにしなさい」と言います。お金は、私たちの心を映す鏡のようなものです。単なる数字として「損か得か」を計算し始めると、その先にいる「困っている人の命」が見えなくなってしまいます。

パウロはこの短い文章の中で「すべて」という言葉を何度も繰り返していま

す。「神さまは、あなたがたが『すべて』の時に、『すべて』において満たされるようにしてくださる」というのです。

私たちが今持っているものは、自分の力だけで手に入れたものでしょうか。今日食べるパンも、明日への希望も、実はその源は神さまから与えられたものではないでしょうか。パウロは、イエス・キリストこそが、惜しみなく自分を分け与えてくださった方のモデルだと言います。

私たちはつい「明日、自分の分がなくなったらどうしよう」と不安になります。しかし、種を蒔く人に「種」を、食べる人に「パン」をくださる方は、私たちが誰かのために差し出した「思い」を、必ず成長させてくださいます。

「損か得か」という小さな枠から一歩踏み出し、神さまを信頼して、今自分にできることを分かち合う。それは、単なる「出費」や「損」ではなく、豊かな実りをもたらす「種蒔き」になるのです。

### 賛美歌

64 (こ 24-2) 「まごころこめ」 奉献・献金の賛美歌。私自身をささげます、と伝えることの大切さを思います。こどもと一緒に心から喜びを持って歌いましょう。

65-1 (こ 24-1) 「今そなえる」 奉献・献金の賛美歌。若い頃、教会幼稚園の礼拝献金の時にいつも、「清めてお受けください」と心をこめ歌い、特別なものとして献げました。

519 「イザヤを招く神の声は」 何も持たない私たちだからこそ、神は招かれ、「み業のために用いてください」と祈ることで、必要なものを与え、豊かに用いてくださいます。

567 「ナルドの香油」 主のご用のため精いっぱいささげたマリアを思います。私たちも、形あるものだけでなく、心をこめて自分自身をささげることができるでしょう。

### 奏楽曲

「小品」〈変ロ長調、ハ長調、二長調、変ホ長調、ヘ長調、ト長調〉高浪晋一②

奉献・献金や小集会など、短い奏楽曲を求められる機会も多いと思います。これらは6つの調性による15の小品です。どれも2段の長さですので、献金などには適宜、繰り返してもよいでしょう。礼拝の前奏であれば、その礼拝の内容や、最初の賛美歌の調性と合わせるなど、少しずつ慣れて工夫をしてみてください。もちろん後奏にも使えます。礼拝の場面を思い浮かべて音色を考えるのも楽しいことです。

9/20

聖霊降臨節第 18 主日

出エジプト記 12・21～27

ヘブライ 9・23～28

マルコ 14・10～25

詩編 96・1～9

## キリストに贖われた共同体

### 主日解説

初期のキリスト教は、もともとユダヤ教の一派でした。しかし時代が進み、ユダヤ教の心の<sup>よ</sup>拠り所であったエルサレム神殿が崩壊したことで、キリスト教徒たちは「自分たちの信仰はユダヤ教とは違う新しいものだ」と自覚し始めます。

楽譜どおりに音楽が何度も繰り返し演奏されるように、ユダヤ教徒は神さまのルール（律法）を毎日繰り返し守ることを大切にしていました。

私は毎朝トレーニングをしています。どんなに緊張していたり、疲れていても、トレーニングをすることで「いつもと同じ」と思うことができます。同じことを繰り返す行為には、心や生活を安定させる効果があります。私が毎日のトレーニングで落ち着くように、ユダヤ教徒にとってその安心の象徴が「神殿」であったのではないのでしょうか。

かつて王国と神殿が破壊されたとき、人々に残されたのは「ルール」だけでした。

た。ルールを完璧に守り続けなければならないという、自己責任の世界になってしまったのです。努力し続けなければ救われないという生き方は、人間にとって孤独と苦しみを与えるものです。

現実を生きている私たちは、どれだけ自分を厳しく律して頑張っても、完璧にはなれません。素人が描いた絵のように、どこか歪<sup>ゆが</sup>んだり失敗したりしてしまうのが人間の本质なのではないかと思います。

キリスト教では自分の力で完璧になる必要はないと教えます。なぜなら、イエスが、不完全な私たちの目の前まで降りてきて、身を低くして寄り添ってくださるからです。イエスは私たちの失敗や罪をすべて受け止め、十字架で自らの命をささげ、共に苦しんでくださったのです。

ルールを完璧に守ろうとする孤独な努力ではなく、ありのままの弱い自分に命懸けで寄り添ってくれる存在が確かにあるのです。

### 賛美歌

194 (こ 49) 「神さまは そのひとり子を」 主イエスの十字架を想い起こし、いつでも優しく口ずさむことができる賛美歌。2 段目ははじめのリズムの変化を意識しましょう。

292 「勝利をたたえて」 単旋律聖歌は歌いづらいつ感じられるかもしれませんが、言葉のまとまりを一息にして歌うとよいでしょう。中世の最も優れた賛美歌と言われている歌です。

449 「千歳の岩よ」 日本で最初に訳された英語賛美歌の一つです。この讃美歌集でも文語体の言葉が残されました。歯切れの良いリズムで力強く賛美することができます。

452 「神は私を救い出された」 ゆったりと広がり、たゆたうようなメロディーは、私たちのただ中にいてくださる神が、確かに動き働いている証しと感じさせてくれる賛美歌です。

### 奏楽曲

292 「勝利をたたえて」 作曲者不明⑦

452 「神は私を救い出された」 R.W. アーウィン⑥

292 は中世の賛美歌による 15 世紀の作品。賛美歌を繰り返し歌ってみましょう。この作品の各声部に賛美歌の旋律が現れるのが聴こえてきます。8 分音符を 1 拍に数え、付点のリズムを練習するとわかりやすくなるでしょう。452 は賛美歌の作曲者自身による現代の作品。手鍵盤のみと、ペダル付きの両方が書かれており、楽器に合わせて演奏ができます。

9/27

聖霊降臨節第 19 主日

創世記 32・23～33

コロサイ 1・21～29

マルコ 14・26～42

詩編 43・1～5

## 苦難の共同体

### 主日解説

何かに慣れてきた頃、失敗した経験はありませんか。例えば車の運転も、初心者より少し慣れた頃の方が事故を起こしやすいそうです。信仰や日々の生き方についても同じで、人間は慣れてくると知らず知らずのうちに怠けたり、自信過剰になったりするのではないのでしょうか。今日与えられた「揺るがず、希望から離れるな」という言葉は、時間が経って情熱が薄れ、心がブレそうになっている人たちに向けられたアドバイスなのです。

さて、この手紙の中に「キリストの苦難の欠けたところを、私が身をもって満たしている」という言葉が出てきます。これは「イエスの十字架だけでは不十分だから、人間も同じように苦勞すべきだ」という意味ではありません。

この手紙が書かれたのは、イエスの死から 70～80 年も経った頃です。日本で戦争体験者の声が届きにくくなり戦争の記憶が薄れるのと同じように、当時の

教会でも十字架を直接知る人がいなくなり、その記憶が薄れつつあったのででしょう。中には「神の子だから本当は苦しんでいなかったはず」と言い出す人さえいたのです。つまり「欠けたところ」とは、人々の心から、イエスが受けた苦しみ<sup>の</sup>の記憶さえも「なかったこと」にされそうになっていた危うい状況を指しています。

大切な記憶が忘れ去られそうなとき、なかったことにされてしまいそうなき、私たちはどうすれば希望を持ち続けられるのでしょうか。

神さまはそんな時代を見越して、ある「秘密の計画」を用意されました。それは、時代を超えてそのメッセージを受け継ぎ、実際にこの世界の中で現していく人を世に送り出すことです。忘れてはいけない大切なことを、自らの言葉と生き方を通して次の世代へとバトンタッチしていく。それこそが、希望の風船をしぼませないための神さまからの答えなのです。

### 賛美歌

299「うつりゆく世にも」「うつりゆく世にもかわることない」という言葉は、いつまでも変わらぬ愛。優しい言葉とメロディーは、こどもも一緒に歌える賛美歌です。

473「世界の望みなる主よ」いつの時代にも、悩み、飢え渴き、さまよえる、罪びとのわれらを救い上げられる「望みの主」が共におられます。希望を賛美しましょう。

474「わが身の望みは」救いの岩なる「十字架の主」にある望み。「タン、タタ、タン」4分、8分、4分音符ひとまとまりのリズムを変わず繰り返し、救いの確信を表します。

539「見よ、闇の力」3節までは、前半部にこの世の困難や誘惑、後半部には望まれるキリスト者の姿が示されます。信仰の戦いにおける揺るがぬ土台は十字架の主にあります。

### 奏楽曲

63「天にいます父よ」志村拓生<sup>⑧</sup>

ルターによる「主の祈り」の賛美歌の奏楽曲です。皆さんで共に祈る「主の祈り」の曲はいつの礼拝にもふさわしく、レパートリーに持っているといえます。曲集<sup>⑧</sup>はいろいろなスタイルの伴奏としてだけでなく、1つずつ、あるいは組み合わせで奏楽曲として弾くことができます。「前奏」を落ち着いた礼拝の前奏として、シンプルな「2声」を献金や間奏に……など、幅広く用いることができます。

## 執り成し

## 主日解説

キリスト教が始まったばかりの時代。当時の信徒たちは、ローマ帝国や周りの人々から冷たい目で見られていました。「あの集団には近づかない方がいい」と噂され、居場所を奪われていったのです。激しい暴力による迫害のイメージが強いかもしれませんが、実は人々を苦しめていたのは「静かな迫害」でした。周りから警戒されるため、彼らは「怪しい者ではありません」とアピールし、ひっそりと目立たないように生活するしかなかったのです。

集まることすら難しくなる中で、信徒たちは次第に疲れていきます。そして、「私たちがダメだから、神さまに罰を与えられている」「もう見放されたのかもしれない」と希望を失いかけていました。

そのような状況の中にいた人たちに、手紙が送られます。そこには、「今の困難は、神さまからの『鍛錬(トレーニング)』だ。愛する子どもだからこそ、鍛えよう

としている」と書かれていました。

「つらいのにただ耐えるしかないのか」と追い詰められたような気持ちになるかもしれません。でも、これは最大のエールでした。彼らは「自分は神さまに嫌われている」と思い込んでいましたが、手紙は「神さまはあなたを見放したのではなく、本当の子どもとして大切にしているからこそ、成長を願っている」と伝えたのです。困難は、神さまとしっかりつながっている証拠でもあったのです。

この言葉は、現代を生きる私たちにも勇気を与えてくれます。思いどおりにいかず挫折しそうなとき、気力を失って「自分はもうダメだ」と孤独を感じる日があるかもしれません。でも、それはあなたが呪われているからでも、見放されているからでもありません。神さまはあなたを鍛え、成長させてくださるのです。だからこそ今この時も隣で一緒に悩み、もがき、伴走してくださるのです。

## 賛美歌

342「神の霊よ、今くだり」「愛に歩ませたまえ」「愛せとの」「愛をもて」「愛に生かしたまえ」と、私の内に働く聖霊が愛へと導いてくださることを、静かに伝えます。

369「われら主にある」現代韓国の創作賛美歌。付点音符と三連符の動きのあるリズムにのせ、和解への願いが広がっていきます。世界聖餐日にふさわしい賛美歌でしょう。

386(こ 103)「人は畑をよく耕し」私たちは神から、食物の実りと共に人としての実り、成長、養いをも与えられています。必要なすべてを備えてくださる神に感謝。

566「むくいを望まで」見返りを求めずただひたすら、御心を求めながら神と人とに伝え続ける。それは一番大切でいて一番難しいこと。変わらぬ言葉で歌い継がれる賛美歌。

## 奏楽曲

369「われら主にある」文屋知明③

作曲者の文屋知明は、この賛美歌の「主にある一致の力強さと喜びを表現したい。また、平和を求める心静かな祈りを忘れてはならない」と書いています。各声部に動きがあり、和声や強弱の変化も豊かです。特に中間部から賛美歌が再現される場所は印象的です。この曲集のCD版ではピアノで演奏されています。強弱などがより表現しやすいかもしれません。ピアノを使用して礼拝をささげている方はぜひ弾いてみてください。

## 忍 耐

## 主日解説

世界中にイエスさまのことを伝える。そのスタートは非常に過酷なものでした。使徒言行録によると、弟子たちは教えを広めたせいで逮捕されます。奇跡的に牢を抜け出しても、逃げずにまた敵の目の前で教えを語り、案の定、再び捕まってしまうしました。

尋問された弟子たちは、「人間に従うよりも、神さまに従わなくてはなりません」と言い切りました。確かにそのとおりですが、ここには厄介な問題があります。彼らを捕まえた側の偉い人たちも、「自分たちこそ正しく神さまに従っている」と思い込んでいたことです。

これは、私たちにも当てはまります。「自分は正しい」と思っている、「自分独自の価値観」に従っているだけということがよくあります。自分が正しいと信じ込むあまり、違う意見の人を「間違っている」と否定し攻撃してしまうのです。

当時、この危険性に気づき、冷静に対

応したのがガマリエルという人物でした。彼は弟子たちに反対する立場でしたが、「もし彼らの行動が人間の思いつきなら、放っておいても自滅する。でも、もし神さまから出たものなら、絶対に止められない。逆に私たちが神さまに逆らうことになってしまう」と仲間を諭しました。自分の正しさにとらわれず、謙虚に真実を見極めようとしたのです。

パウロも、最初は「自分の正義」を信じてキリスト教徒を激しく迫害していました。しかし、イエスとの出会いによって自分の間違いに気づかされ、生き方を大きく変えることになります。

自分の信じる正しさが崩れるのは、ショックなことです。イエスがその歩みの中で大切にしてきたのは、自分の正しさを他人に押し付けることではありませんでした。考え方や立場、文化が違う人たちが互いの違いを受け入れ、一緒に「御心」を探し求めていくことなのです。

## 賛美歌

414・415「せかいの友と」 世界のキリスト者の連帯を歌った賛美歌。1958年に東京で開催された「第14回キリスト教教育世界大会」の大会歌で、一つの歌詞に対し2曲の旋律が準備され歌われたとのこと。414番は日本人に、415番は外国諸国の参加者に人気でした。2つの曲は趣が全く違いますので、両方味わっていただきたいと思います。

421（こ 108）「ウリエイウツソン」 韓国のこども用の賛美歌集から載せられた賛美歌。韓日両国語がつき、読み仮名があるので、韓国語にもチャレンジし連帯を願いましょう。

530「主よ、こころみ」 人の世の様々な試み、迷い、誘惑に、煩わしさや悲しみを抱える時にこそ、主の御手が差し伸べられます。十字架の愛に望みをおき、救いを願います。

## 奏楽曲

「祈り 44番」N・レンメンス◎

この曲集はベルギーのオルガニスト、作曲家であったレンメンスのオルガン教則本です。オルガンの学びと同時に、どの曲も礼拝の奏楽に用いることができます。短い「前奏曲」や、「祈り」など、わたしたちの礼拝にも使いやすい曲が多く、この44番もそのような一曲です。Andante religiosoとありますので、穏やかな速度と敬虔な気持ちで、前奏や間奏に弾いてください。

## 天国に市民権をもつ者

## 主日解説

今日与えられた「ヨハネの黙示録」は、一見すると世界の終末を描いた恐ろしい予言書に思えるかもしれませんが、そこには「どんなに厳しい現実の中でも、神さまは私たちを絶対に見捨てない」というメッセージが込められているのです。

世界を滅ぼすような激しい嵐が吹き荒れようとする場面があります。しかし、大地の四隅には4人の天使が立ち、必死に風を押しとどめています。神さまが大切にしている人々を守るためです。そこにもう一人の天使が現れ、一人ひとりの額に「この人は神さまのものだ」という証明である「刻印(しるし)」を押していきます。これは、人生の苦難や「死」という大きな嵐の中でも、神さまはその人を決して見失わず、最後まで守り抜くという約束のしるしなのです。

また、「十四万四千人」という具体的な数字が登場します。これは決して天国の定員に限られているという意味ではあ

りません。当時の文化で「12」は完全な数字とされており、この数字は「救うべき人は、最後の一人に至るまで完璧に救い出される」という神さまの強い決意を表しています。実際、そのすぐ後には、あらゆる国や民族から集まった「数えきれぬほどの大群衆」が、喜びの中で神さまをたたえる姿が描かれています。

当時、キリスト教を信じる人々はローマ帝国による激しい迫害の中にありました。彼らは朝日の昇る時刻に集まり、希望を持って礼拝をささげました。荒れ狂う社会という嵐の中で、礼拝の時間は天使が風を押さえてくれているような「静かで安心できるひととき」だったのでした。

私たちは人生の中で、自分の力ではどうにもならない嵐に直面することがあります。しかしそのような時も、私たちが「もうどうしようもない」と絶望したとしても、神さまは見捨てることなく共にいてくださるのです。

## 賛美歌

36「いと高きところには」 語るように歌うイメージで、音符の長さはおおよその目安と考え、音程を保ちながら朗誦ろうじゆうします。ゆっくり音読するような速さで歌いましょう。

87「罪なき小羊」 バッハの《マタイ受難曲》の冒頭にあるコラールで知られています。54年版よりリズムと音に変化があるので、気をつけて歌いたいと思います。

380「信仰のつばさを」 聖書の言葉が現代に引きつけられます。今は天にいる信仰の先達たちを仰ぎ、同じように主のみあとを進んでいこうと、神への賛美をささげます。

574「雪より真白い」 聖書箇所9節の情景を歌っています。はじめは音に言葉を付けるのが少し難しく感じるとお思いますので、テンポを落として練習して歌うとよいでしょう。

## 奏楽曲

87「罪なき小羊」 志村拓生⑧／高浪晋一②

87番の奏楽曲は本誌208号でガードシュとツァハウを紹介しました。⑧の「前奏」は内声の左右での取り方に注意します。「3声(バスに旋律)」では左手で旋律を弾くことにも慣れましょう。「4声」は賛美歌と違う和声も使われ新鮮な響きです。礼拝の場面に合わせて選んでみましょう。②は左手と右手でテーマを追いかける前半、左手にテーマが現れる後半と和声的なコードからなっています。

10/25

降誕前節第9主日

ヨブ記 38・1～18

使徒 14・8～17

ルカ 12・13～31

詩編 148・1～6

## 創造

### 主日解説

ヨブは、財産も家族も健康も突然すべてを失うという、言葉にできないほど悲惨な目に遭いました。彼を訪ねてきた3人の友人は、「こんな不幸が起きるのは、君が隠れて何か悪いことをした報いだ。素直に謝れば救われるよ」と説得します。しかし、ヨブには到底受け入れられませんでした。ヨブは友人たちの言葉に神さまの愛を感じることはできず、むしろ自分の正しさを証明するために、命がけで神に迫るのです。

「私はこの目で神に会いたい」と叫び続けたヨブに、ついに神が嵐の中から答えます。しかし、神が語ったのは「なぜ苦しまねばならないのか」というヨブの問いへの答えではありませんでした。神さまはヨブに、「私が地の基を据えたとき、あなたはどこにいたのか」と問います。ヨブは、人間の存在がいかに小さく、無力であるかを突きつけられたのです。

神さまはヨブの苦しみを無視して圧倒

しているように見えます。しかし、宇宙を造った偉大な神が、ちっぽけな存在でしかないヨブと同じ土俵に立ち、一対一で「あなた」と呼びかけ、真剣に向き合ってくださいているのです。

ヨブは、神さまの壮大な計画の中に、自分という小さな存在も確かに組み込まれていることを知りました。かつてヨブは苦しみを「神の手が自分を打った」と感じていましたが、今はその同じ手が、自分を包み込む大きな愛の手であることを知ったのです。

私たちもまた人生の嵐の中で、「なぜ自分だけが」と絶望することがあります。しかし、神さまは私たちの問いを無視せず、正面から向き合ってくださいていることが書かれています。私たちの目からは神さまが見えなかったとしても、望んでいた答えが得られなかったとしても、それでも必死に生きている私たちを包んでくれる「愛の手」が確かにあるのです。

### 賛美歌

58「み言葉をください」 ヨブのようにただひたすら神に訴え求める祈りがここにあります。「恵みの主」「救いの主」「いのちの主」はそれを聴き応えてくださるのです。

362「創造の主」すべては神の支配の内にあります。拍子の変化があるので、初めは音符の長さどおりで繰り返し歌い、慣れていくとともに言葉のまとまりを意識し歌います。

363「み神の力は」歌詞はこどものための賛美歌として作られたそうです。神の造られた様々な生命が鮮やかに浮かびます。力強さと軽やかさを併せ持つメロディーです。

529「主よ、わが身を」 剣のように硬く尖り、人を傷つける私の心を砕いてくださいという願いに思いを合わせます。心を低くし主に委ねたいと願う祈りの歌。

### 奏楽曲

157「いざ語れ、主の民よ」北澤憩<sup>⑩</sup>

本日の聖書箇所から選びました。OLD 124TH という詩編 124 を歌う旋律です。だんだん声部が増えていく前奏で、「いざ語れ、主の民よ」という思いを引き出していきましょう。カノン風の展開やユニゾンで曲が進みます。最後から2段目は右手に少し広い音程が連続しますので、手になじむよう練習するとよいでしょう。そして作曲者の助言にあるように、最後の部分は「1つ1つの音を際立たせて堂々と」弾いてください。

## 保存の契約(ノア)

## 主日解説

私が仕えている美馬牛福音伝道所は、2009年に新会堂が建ちました。教会員3名、その中のお一人は新会堂が建つ前に天に召されました。北海道の地方の小さな伝道所です。一番距離の近い教会も30kmほど離れています。電車の本数も多くはありません。この教会がなくなってしまうと礼拝を守ることができなくなる人がいるのではないかと。誰がどう考えても無謀な挑戦にしか見えなかったことでしょう。実際に「やめた方がいい」というアドバイスも多かったと聞いています。

人もいない、お金もない。できないことを数えだしたらキリがないけれど、道北地区や北海教区、全国の皆さんのお支えとお祈りがあり、新会堂が建ちました。多くの人たちが自分の教会のことであるかのように祈り、支えてくださったのです。献堂式の日、会堂のうえには「虹」がかかったそうです。人の目にはどうしようもない、「もうだめだ」としか思え

なかったところから献堂式の日には虹を見て「これは神さまの約束だったのだ！」と思わされたというお話をよく聞きます。

神さまは「二度と洪水で世界を滅ぼさない」という一方的な恵みの約束をされました。その約束のしるしとして、空に「虹」を置かれました。実は、ヘブライ語で虹は「弓」を意味します。かつて戦いの武器であった弓を神さまが手放し、天地の間に平和の架け橋として置かれたのが虹なのです。虹は神さまと人間を目に見える形でつないでくれているのです。

私たちは虹を見るたびに、神さまの愛と変わることのない希望を思い起こすことができます。どんなに激しい雨が降ったとしても、その後には必ず神さまの平和のしるしを見ることができるのです。私たちの目にはどうしようもないとしか映らなくても、神さまは私たちが想像もしていないような「その先」を必ず備えていてくださっているのです。

## 賛美歌

381・382「力に満ちたる」 聖徒の日を覚えて。「主の愛は十字架の死に示される」という大きなメッセージ、「よみがえる愛」は終末の復活をも含んでいるとのこと。メロディーは382番が歌い慣れていると思いますが、381番もぜひ歌ってみましょう。

425(こ113)「こすずめも、くじらも」 創造主の働きを覚え、その恵みの御手の内にある自分を振り返る時、傲慢な思いを捨て、神の愛に感謝し平和を願わずにはおれません。

510「主よ、終わりまで」 4節「主は約束をかたく守り、終わりの日まで導かれる」、その約束で、私たちは造られた初めから、ずっと愛と恵みの内に生かされています。

ダウ3「歌おう、主のため仕えた聖徒を」 天上にある聖徒を覚えその証しに倣いたい。

## 奏楽曲

425「こすずめも、くじらも」C.シャルク③

510「主よ、終わりまで」二俣松四郎④

425は賛美歌の作曲者自身の作品で、この曲集のために書かれました。賛美歌の旋律による(Ⅰ)と、旋律を飾る(Ⅱ)の段が交互に現れます。音色を変えることも勧められています。愛唱者も多い510は、賛美歌がそのまま歌われる前半と、下の二声で動きがでる後半、どちらか1つでも、または続けて1曲としても演奏することができます。

## 神の民の選び(アブラハム)

### 主日解説

アブラハムとサラの夫婦が、神さまから「二人の間に男の子が生まれる」という驚くべき約束を与えられた時、二人の反応は、喜びではなく「笑い」でした。

まず、100歳のアブラハムの場合です。彼は神さまの言葉を聞いてひそかに笑い、「100歳の男と90歳の妻に子どもなんて、生まれるはずがない」と心の中でつぶやきます。そして神さまに「今いるイシュマエル(奴隷との間に生まれた子)が元気に生きてくれば、それで十分です」と答えます。

アブラハムにとって神さまの約束は、あまりにも現実離れした冗談のように聞こえたのでしょう。彼の笑いは、「神さま、今さら何を言っているんですか。現実を見てくださいよ」という、冷めた皮肉のような笑いだったと言えます。彼は、神さまの奇跡を期待するよりも、すでに目の前にいる息子で妥協するほうが「現実的だ」と考えたのです。

一方、妻のサラも同じでした。18章で神さまの使いが「来年の今頃、サラに男の子が生まれている」と話すのを物陰で聞いていた彼女は、思わず笑ってしまいます。「自分はもう年老いて、身体も衰え、人生の楽しみなんて終わっているのに」と考えたからです。

サラはこれまで、跡継ぎがない苦しみの中を必死に生きてきました。自分の奴隷を夫に差し出してまで家系を守ろうとしたのも、彼女なりに最大限の努力をした結果でした。だからこそ、自分の限界を誰よりも知っていたサラにとって、今の自分に子どもが産まれるという言葉は、到底信じられるものではありませんでした。彼女の笑いもまた、「もう手遅れだ」という諦めと、自分をあざ笑うような悲しい笑いだったはずでした。

この「皮肉な笑い」が、のちに本物の「喜びの笑い」へと変えられていく。その希望をもって歩みたいと願います。

### 賛美歌

89「共にいてください」 聖書3節「どうか僕のところを通り過ぎて行かないでください」に、共にいてくださいという願いが表されています。ここから道が照らされますように。テゼの賛美は何回も繰り返して歌うことで深まり、祈りの思いを一つにしていきます。

356「インマヌエルの主イエスこそ」 私たちは目に見えるものにとらわれると神を見失います。しかし私たちが信じ求める時、神は恵みを与え、その存在を現してくださいます。

360「人の目には」 神の業や恵みは人の目には隠されていても、確かに、音もたえず、気づかれずに進んでいます。見えないものを信じ気づかせていただくことができますように。アイオナ「アブラハムよ」 聖書に登場する人物になぞらえ、神の召命を歌う曲です。

### 奏楽曲

155「山べにむかいて I、II」 玉理照子①

2つの編曲のIは賛美歌の主題が豊かに装飾されています。その主題をまず探してみましよう。静かに、「すべてを神さまにお委ねするイメージ」(作曲者)で演奏しましょう。IIは「神さまのお守りを感謝し、その喜びの中で編曲しました」(作曲者)とあります。リズムや音色でそれを生き生きと表現したいです。Iを礼拝の前奏に、IIを後奏に使うのも、統一感があって良い奏楽になると思います。

## 救いの約束 (モーセ)

## 主日解説

モーセはエジプトで奴隷とされていたヘブライ人の家庭に生まれましたが、偶然にも王女に拾われ、王子として育ちました。しかし大人になり、苦しめられていた仲間を助けようとしてエジプト人を殺してしまい、ミデヤンという土地へ逃亡します。そこで家族を持ち、羊飼いと静かで平穏な日々を送っていました。

ある日、彼の運命を大きく変える出来事が起こります。羊の群れを荒れ野の奥に導いていると、柴（小さな木）が燃えているのを見つけました。不思議なことに、火は燃えているのに木は燃え尽きません。モーセは「道をそれて」近づいていきました。この「道をそれる」「道草をする」という行動が、神さまとの出会いのきっかけになったのです。

その火の中から、神さまがモーセに語りかけました。「私はエジプトで苦しむ民の叫びを聞いた。あなたをファラオのもとへ遣わし、彼らを救い出す」と。遠

く離れて平穏に暮らしていても、モーセは、心の中でいつもエジプトの仲間たちが気になっていたでしょう。神さまは、その痛みを共に感じておられたのです。

モーセが見た「燃え尽きない火」は、派手なものではありません。暗闇で静かに燃え続ける、小さな焚き火のようなものであったのではないのでしょうか。私たちが求めている希望の光も「小さくても、決して燃え尽きずに照らし続ける」ものなのです。

モーセは「私にそんな大役は無理です」と戸惑いますが、神さまは「私は必ずあなたと共にいる」と約束してくれました。人生で予定どおりにいかず「道をそれる」ことや、「道草」をすることがあります。「こんなはずじゃなかった」としか思えない寄り道の中でこそ、私たちは思いがけない大切な使命に出会ったり、「いつでもあなたと共にいる」という神さまの存在に気づかされるのです。

## 賛美歌

91「神の恵みゆたかに受け」 神の民として礼拝に招かれた私たちは、養いを受けそれぞれ世に遣わされます。感謝し、心高く軽やかに賛美し、押し出されていきましょう。

160「深き悩みより」 今日の聖書の7～10節が詞の題材です。ルター自身が作った曲で、最初の5度の下行上行する音は「深い悩みより」み名を呼ぶ叫びを表しているとのこと。

186「エジプトのイスラエルに」 アフロ・アメリカン・スピリチュアルの一つ。力強いメロディーと共に、解き放て、進み行け、束縛を打ち砕けと、主にある自由を求め歌います。

541「また会うその日まで」 若きモーセには離れているイスラエルの仲間たちをいつも思う心がありました。離れている友を想い、「神が共にいて守られますように」と祈ります。

## 奏楽曲

91「神の恵みゆたかに受け」 R. Proulx ①

160「深き悩みより」 (われは深き淵より、汝に呼ばわる) H.Ch-Petit ①

91はウェールズ民謡による親しみやすい旋律を、Proulxが新しい感覚の和音で編曲しています。そして「心の中に……」の中間部から始まる構成も新鮮です。160はソプラノの旋律と内声の二声を右手で弾くのでよく練習をしましょう。賛美歌の導入のためのIntonationが2つ載っています。短い前奏で歌い出す場合などに使うことができます。

## 王の職務

### 主日解説

ダビデが王位に即いたことが書かれています。ダビデはいきなりイスラエル全土の王になったのではなく、まずヘブロンでユダ部族の王になり、その7年半後、イスラエルの全諸部族の長老たちと新たな「契約」を交わして、ようやく全イスラエルの王となったのです。

私たちは、王やリーダーは「血筋」や「圧倒的な軍事力」「その人の持っている能力」によって決まると思っているかもしれませんが、しかし、聖書の世界では、統治される側の民や長老たちとの「契約」があって初めて成立するものでした。

つまり、「王」はあくまでも神さまが立ててくださったということです。当時のエジプトでは、ファラオは神そのものとして崇められていました。しかし、イスラエルの王はあくまで神と民との間に立つ「仲介者」であったのです。

ダビデがイスラエルの王になったのは30歳の時です。これは祭司が職務に就

く年齢であり、後にイエスが新たな歩みを始めた年齢とも同じです。少年時代に、サムエルから王としての油を注がれてから約20年。ダビデは苦難の中でも、家族や親友ヨナタンに励まされ、神さまと共に歩みました。

ダビデの40年の統治は、イスラエルの民が荒れ野を旅した期間と同じです。神さまはその使命を与えた人に対し、それを果たすための知恵や力を必ず備えてくださいます。大切なのは「自分の能力で何ができるか」ではなく、「示されたことのために力を与えてください」と祈ることなのではないでしょうか。

私たちはつい、自分の力ではとうていできないと思い、神さまはよしとしてくださいと確信していても、決断できないことがあります。しかし、神さまは必ず必要なものを備えていてくださる。なぜなら、私たちにその役割を与えてくださっているのは神さまだからです。

### 賛美歌

13「みつかいとともに」「かんむりをささげて主とあがめよ」と繰り返します。冠は王のしるし。王なるダビデから王なるイエスへと、神の救いの約束は果たされていきます。173「荒れ地よ、喜べ」イザヤ書35章をうたう頌歌をアドヴェントを迎えるこの時期に。短い8小節の中にドラマを感じさせる曲で、詞のイメージを持ちながら賛美しましょう。239「王なるキリストは」ダビデにつながるキリストの到来を待ち望む賛美歌。主イエスの冠は、ひとりひとりの心に神がもたらす、目に見えずとも輝き続ける冠でしょう。こ13「さあダビデのように」ダビデはたくさんの詩を作っていますので、「歌おう」はピッタリですね。自由に言葉をつけられると書かれていますので、工夫してみましょう。

### 奏楽曲

こ13「さあダビデのように」高浪晋一②

90「主よ、来たり、祝したまえ」玉理照子①

『こどもさんびか改訂版』による奏楽曲も礼拝で積極的に用いていきましょう。こ13はソプラノに旋律があり弾きやすい編曲です。

そして最後に、「派遣」の賛美歌90の作品を紹介します。豊かな和音で会衆の皆さんを励まし送り出しましょう。「われらみな、主のものなり、とこしえまで主に仕えん」と。

## 「主日礼拝に備えて」楽譜一覧

\*手鍵盤のみで演奏できる曲を選んでいきます。

- ①『讃美歌 21 による新しい前奏曲集 I』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 41)
- ②高浪晋一『賛美歌による奏楽曲集 「讃美歌 21」 「こどもさんびか改訂版」をもちいて』(高浪音楽工房 [日本キリスト教団出版局])
- ③『讃美歌 21 による礼拝用オルガン曲集 第 2 巻』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 32)
- ④二俣松四郎『讃美歌のメロディーによるやさしい奏楽曲集』(日本キリスト教団出版局、曲集 No. 29)
- ⑤J. C. バッハ『44 のコラール前奏曲』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 27)
- ⑥『讃美歌 21 による礼拝用オルガン曲集 第 6 巻』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 36)
- ⑦『讃美歌 21 による礼拝用オルガン曲集 第 5 巻』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 35)
- ⑧志村拓生『讃美歌 21 による賛美歌伴奏曲集 第 1 巻』(日本キリスト教団出版局)
- ⑨『レンメンズオルガン教則本』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 14)
- ⑩『讃美歌 21 による礼拝用オルガン曲集 第 3 巻』(日本キリスト教団出版局、曲集No. 33)
- ⑪『オルガン・コラール小品集 現代作曲家による』(日本キリスト教団出版局、曲集 No. 25)

高浪晋一編曲『讃美歌21』やさしい伴奏譜 電子版好評配信中!

# 『讃美歌21』やさしい伴奏譜

～ゆとりを持って弾くために～

運指番号つきで  
初心者でも  
取り組みやすい

- ▶弾きやすく、ミスタッチを軽減
- ▶オルガン (パイプ・電子・リード)、ピアノ、キーボード、どの鍵盤楽器でも使える
- ▶歌詞の書き込みスペースあり

Web上にガイド

「会衆と共に賛美をささげるために」を掲載

この伴奏譜の目的、運指テクニックの  
説明・動画等が見られます。



<https://bp-uccj.jp/files/21YBGuideTakanami.pdf>

ご購入は  
ピアスコア  
**Piascore 楽譜ストア**  
で!

- 本シリーズ電子版楽譜は、インターネット上の**（Piascore楽譜ストア）**で販売します。
- 各曲**150円（10%税込）**で、**1曲ずつ**お求めいただけます。

（Piascore 楽譜ストア）内、  
日本キリスト教団出版局のページはこちら  
<https://store.piascore.com/search?c=5798>



\*初回購入時にユーザー登録の手続きが必要です。  
\*お支払いは原則クレジット決済です。1,000円以上のご購入で銀行振込もご利用いただけます。

日本キリスト教団出版局 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18 TEL 03-3204-0422 FAX 03-3204-0457  
■ホームページ <https://bp-uccj.jp> ■Eメール [eigyoubp@bp.uccj.or.jp](mailto:eigyoubp@bp.uccj.or.jp) 《価格は10%税込》